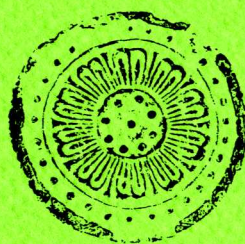


大分市歴史資料館年報

(平成10年度)



1999

は じ め に

平成10年度の年報をお届けします。

開館以来11年も経過して、本来大分市民に広く周知されているはずと思われますが、総利用者数は統計上まだ大分市の全人口に少し足りないほどにしか達しておりません。宣伝不足を恥じております。他の博物館施設を見ても10年以上経つと入館者数の減少が顕著になり、全面的なリニューアル無しに入館者数の減少を食い止める事は難しいようです。当館も年間利用者数の減少を防ぐ事はできていません。

入館者数を少しでも増やそうと、殆ど予算もなしに始めた年4回のテーマ展示も今年で7年経ちました。テーマによってはリピーターも見られますが、大きな入館者数増加にはなっていないのが実情です。展示自体は好評を得ていますのでこれからも、さらに収蔵資料を充実させて市民の要望を取り入れながらテーマ展示を続けて行きたいと考えています。

本年度の特別展示は、『大分の遺宝－指定文化財を中心に－』と題して大分県内の指定文化財を中心に展示しました。県内に所在するといっても日頃見る機会の少ない品々でしたので好評を博したようです。

各種講座はいつも定員を（約70名）を大幅に超える応募者あり、生涯学習時代を迎えた事を感じています。

今後とも、資料館をご利用くださり、ご支援下さりますようお願いいたします。

平成11年 3 月31日

館長 木村 幾多郎

目 次

展 示	1
テーマ展示 特別展示	
講演記録	4
資料調査	19
教育普及活動	20
資料収集	22
図 書	25
資料館利用状況	32
管理及び運営	34
歴史資料館協議会 組織・職員	
決算 施設管理業務の内容	
施設の概要	36
条例・規則	38
日 誌 抄	44
利用案内	46

展 示

テーマ展示

本年度は、以下の内容のテーマ展示を開催した。



第1回「文字が語る大分の歴史

—館蔵古文書より—

会期 4月25日(土)～6月28日(日)

入館者数 3425人

当館が所蔵する、源頼朝・大友宗麟書状をはじめ、藩政史料、江戸時代の村の記録などを展示し、そこに記された郷土の歴史を紹介した。

主な展示品 源頼朝書状・大友宗麟書状・大友義統書状・府内藩歴代藩主書状・海部郡竹下村田畠検地帳・御船手御家人中屋敷改メ鶴崎村竿前扣ほか

第2回「下郡遺跡展」

会期 7月4日(土)～9月27日(日)

入館者数 3117人

弥生時代の大規模な環濠集落や古代の大型建物跡など、貴重な遺構や遺物が確認され、近年話題をよんでいる下郡遺跡について、発掘調査の成果をまとめて紹介した。

主な展示品 土器(縄文～江戸時代)・木製品(弥生時代)・ヤリガンナ(弥生時代)・石器(縄文～弥生時代)・人頭埴輪(古墳時代)・墨書土器(古代)・円面硯(古代)・遺構写真ほか

第3回「江戸の物語絵」

会期 12月5日(土)～1月31日(日)

入館者数 1217人

物語などを題材にした、桃山～江戸時代の屏風絵や錦絵・挿絵の世界を紹介した。

主な展示品 源氏物語図屏風断簡・大織冠図屏風・東海道中栗毛野次馬・日本永代蔵

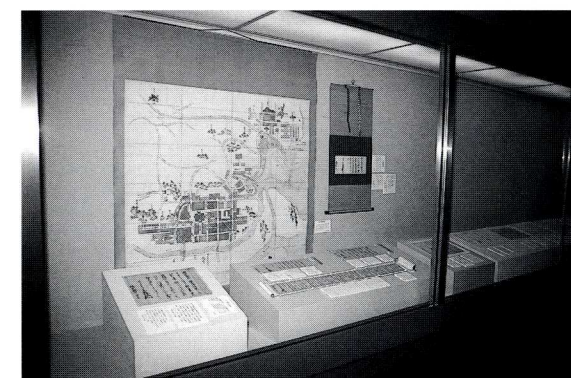
第4回「府内の寺と社」

会期 2月6日(土)～3月28日(日)

入館数 1645人

豊後府内の神社・仏閣を絵図や資料をもとに紹介した。

主な展示品 福寿院絵図・浄安寺絵図・松栄山絵図・円壽寺絵図(以上、松栄神社蔵)・御城下絵図ほか



パソコン学習クイズ

本年度は、「むかしの道具」に関する全13問のクイズ形式の学習ソフト1本を作成した。本ソフトでは、昭和30年代初めまで農業や家庭生活の中で身近に使われていた道具について、大きく①農作業の道具、②織物の道具、③生活の道具に分けて設問し、それらの道具を通して当時の生活の様子が理解できるような内容とした。

資料収集

資料収集委員会

1. 会議

開催日 平成11年2月19日（金）

場所 大分市歴史資料館会議室

議題 (1)委嘱状の交付

(2)購入予定資料の審議

(3)本年度の資料収集

(4)その他

2. 委員名簿

氏名	役職	分野
賀川光夫	別府大学名誉教授	日本考古学
加藤知弘	大分大学名誉教授	日本海外交流史
豊田寛三	大分大学教育学部長	日本近世史
菊竹淳一	九州大学文学部長	日本美術史
段上達雄	文化庁文化財保護部 伝統文化課文化財調査官	日本民俗学
阿部利重	大分市助役	地方行政

寄贈

(1) 唐箕 1点、うなぎてぼ 2点

佐藤弘行 氏

(2)「昭和15年11月現在、大分出張所敷地全景」

（東京第2陸軍造兵廠火薬製造工場：現旭

化成大分工場） 1冊 末松節子 氏

(3) 藩札（岡藩銀札）4点 西健一郎 氏

(3) 扁額（「蓬萊館」平野五岳書）1点

立川速水 氏

(4) 蒸籠 1点、ザル 1点、飯籠 1点

中西正生 氏

(5) 養蚕道具（養蚕台とネット、回転マブシー

式） 佐藤秀充 氏

(6) 蠟管式蓄音機1台 蠟管3本

秋吉正宣 氏

(7) 注連縄（緒方町、姫島町、竹田市、日田市、

豊前築上郡、京都、神奈川、東京ほか）26

点、アワボタレ 2点 富来 隆 氏

寄託

(1) 県指定 詫摩文書11巻

詫摩妙子・詫摩昭二 蔵

(2) トラディスカント壺・漆塗壺 2点

個人 蔵

購入

(1) 蘭語譯撰 5冊

本書は、中津藩5代藩主奥平昌高(1781－1855)

によって文化7年（1810）江戸で出版された日

蘭辞書で、通称「中津辞書」と呼ばれているもの

である。オランダ語書名を「Nieuw Versameld

Japansen Hollandsch Woordenboek」（新集

日蘭辞典）といい、「蘭語譯撰」の書名は、棠亭

（昌高の号）の記す凡例に「しばら^{しばら}姑コレヲ題

シテ蘭語譯撰トイウ」とあることによっている。

本文には、イロハ引きで7072の語句が天文・

地理・数量・衣服・飲食・動物・植物などの19

部門に分けられて収録されており、その中には

「Maakt de thee 茶ヲコシラエヨ」、「Is de thee

algekookt ？ 茶ハモハヤ煎タルカ」といった

会話表現もみられるなど、江戸時代に刊行された

日蘭辞書としては最も充実した内容を備えたもの

といわれている。長崎のオランダ通詞馬場佐十郎

によるオランダ語の序文によれば、当時幕府の御

用で江戸に来ていた佐十郎に昌高から依頼があり、

彼が記憶している単語を中津藩士神谷弘孝に書

き取らせ、これを昌高自身が編集したものとある。

また、巻末には「小林冬溪」なる彫師の名前も

みられ、その出版に際しては、まず匡郭^{つうこく}野と訳語

を製版で摺り、その後オランダ語と各部門の単語

を木活字で摺る、二度摺りが行われており、かな

り手間を要したこともうかがうことができる。

現在、同書は、国内の公的機関では、わずか

8ヶ所程に所蔵されているのみで、それらによる

と、外見上大きく①2巻2冊本、②5巻5冊本、

③5巻1冊本の3種類に分類することができると

いわれる。②・③には一部オランダ語などに訂正

のあとがうかがえること、また③は②を合冊にし

洋装本1冊に仕立て直したものであることから、

当初①が出版され、その後、②、③の順で改訂

版が出されたと考えられている。5冊本からなる

本書は、上記②のタイプに相当し、『蘭語譯撰』

としては整備された内容を伝えたものといえる。

また、保存状態も良好で、全体の装丁（濃紺の表

紙にオランダ語書名を印刷した題簽を貼り、製本

では洋装形式の包背装を用い、左端3ヶ所を鉤

止めする）についても出版当初の形態をよく留め

ている。

(2) 豊後鶴崎関係資料 一括

本資料には、以下に示すような幕末から明治

期におよぶ豊後鶴崎関係の史・資料がおさめられ

ている。

①藩札（肥後領鶴崎札銭五匁、同拾匁、豊後府

内藩銀札拾匁、同筵代銭五分ほか） 13枚

②「御茶屋」図（平面図） 149×133cm

③「明治三年六月鶴崎高田手永門前村江造酒場

奉願候ニ付同村周廻等之絵図面」

縦42×横58.5cm

④「野津原手永略図」 縦39.0×横51.8cm

⑤熊本藩知事韶邦辞職願写

⑥「良之助様（細川護久）喜連川江御越御行列

之次第」

⑦覚書・書状等 12通

1. 細川護久直書写（「一筆申候開国鎖国之儀

ハ…」）

（明治元年）2月16日、御家老中・御中老宛て

2. 直書写（「逐年家中奢美ニ依れ風俗不宜…」）

3月、家老中・中老中宛て

3. 吉村伴右衛門・蒲池喜左衛門書状（御定式

目録差出状控）

享保18年7月12日、筒井半助あて

4. 安達仁左衛門書状写（御定式目録差出状写）

文政2年4月、遠坂万助あて

5. 石川源兵衛書状写（御定式目録差出状写）

万延元年12月42日

6. 矢野次郎八書状写（御定式目録差出状写）

7月8日、山崎平助あて

7. 大河原次郎九郎書状写（「去ル五日一統頭々

江被相渡候御直書写等…」） 3月11日

8. 選挙方御奉行中書状写（「御船頭列より並

御船頭被仰付御加子より御船頭列被仰付儀…」）

12月9日、渡辺十左衛門・片山甚十郎あて

9. 某書状写（「当夏浦賀表江異国船渡来一旦

御出馬を茂被為蒙仰候付而…」）

（嘉永6年）10月4日

10. 某書状写（「御家中心得方之儀付而九郎右

衛門江戸出立之節…」） 7月13日

11. 某書状写（「御勝手向之儀時勢ニ随ひ逐年

御出方張出…当年より五ヶ年之間御心附とし

て別紙目安之通盆暮両度ニ御米被下置…」）

7月13日

12. 覚書（「本行御心附米之儀盆暮両度ニ半方

宛被下置候…」） 7月

⑧献立 2通 ほか

(3) 錦絵「日向国 三国峠進撃之図」

縦36.5×横73.5cm（3枚1組）

大分県大野郡三重町と、同南海部郡宇目町と

の境にある、三国峠での西南戦争の戦いの場面を

描いた錦絵で、画工「山崎徳三良」・出版人

「荒川藤兵エ」によって 明治10年8月15日に届

出、出版されたもの。大分県下の西南戦争の状

況を日記体でまとめた「明治十年西南騷擾襟誌」

（館蔵）によれば、峠の周囲には、17、8箇所の

薩軍の砦があったとされ、6月17日に政府軍の夜

襲によって砦は破られ、薩軍は宇目へ逃れたとあ

る。本絵は、同峠で起きたこの攻防戦を題材に

描かれたとみられる。なお、登場人物は実際とは

異なり、表題の「日向国」も「豊後国」の誤り

とみられる。

複製品製作

①「當社放生會御幸之図」（原本は柞原八幡宮

所蔵）

明治22年（1889）に復元された宝暦4年（17

54）銘の同絵馬（絵の傷みが著しく、細部にお

いては識別も困難な状況にある）を、描線・彩

色の跡や、大正年間に撮影された写真資料をも

とに、可能な範囲で復元を試みたもの。18世紀

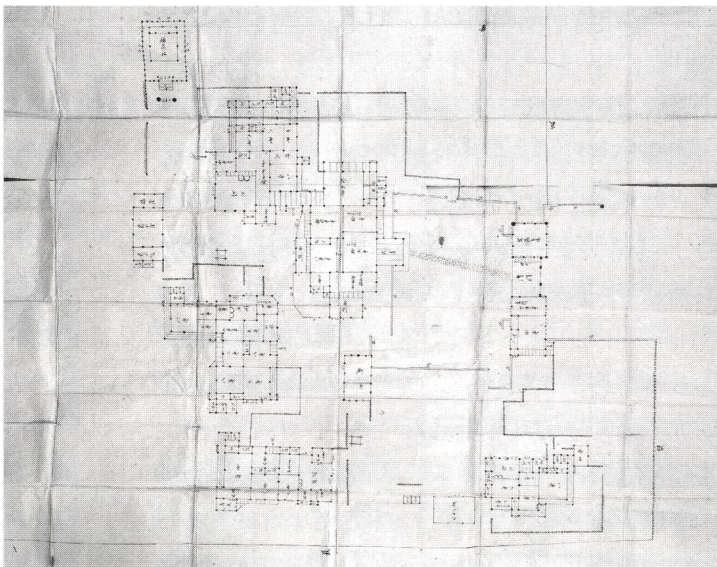
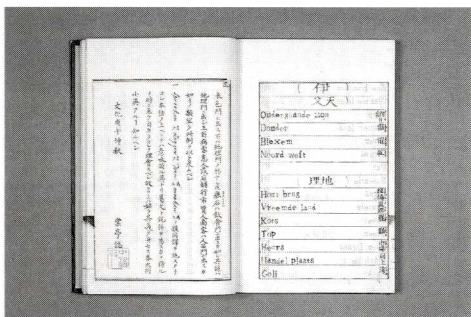
半ば頃の、柞原八幡宮の放生会の御神幸や、西

日本三大市の一つに数えられたその祭礼市「浜の

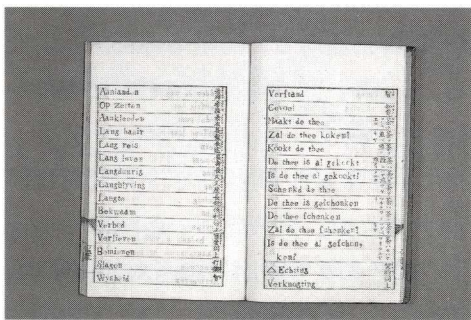
市」の様子を伝えた貴重な歴史資料である。



錦絵「日向国 三国峠進撃之図」



豊後鶴崎関係資料・「御茶屋」図（部分）



蘭語譯撰

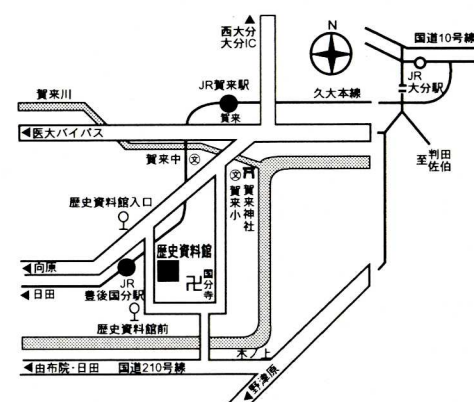


絵馬「当社放生会御幸之図」（複製品：原本 柞原八幡宮蔵）

利 用 案 内

- 開館時間 午前9:00～午後5:00
(入館は午後4:30まで)
- 休 館 日 月曜日(祝日にあたるときは翌日)
祝日の翌日
年末年始(12月28日～1月4日)
- 観 覧 料 大 人 200円(団体150円)
小中高生 100円(団体50円)
(市内の小・中学生は無料です)
- * 団体は20名以上
 - * 特別展の開催中は別料金になる場合があります。

- 交通機関 J R 久大線
○豊後国分駅下車
大分バス
○歴史資料館前下車
国分新町ゆき
向原ゆき(国分団地経由)
今畑ゆき(")
中村ゆき(")
竜原ゆき(")



大分市歴史資料館年報

1999

発 行 日 平成12年3月31日

編集・発行 大分市歴史資料館

大分市大字国分960番地の1

〒870-0864 (097)549-0880